

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成23年2月14日
【四半期会計期間】	第59期第3四半期（自平成22年10月1日至平成22年12月31日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期連結 累計期間	第59期 第3四半期連結 累計期間	第58期 第3四半期連結 会計期間	第59期 第3四半期連結 会計期間	第58期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 4月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成22年 10月1日 至平成22年 12月31日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(千円)	14,111,589	14,169,948	4,896,079	5,000,263	18,721,424
経常利益(千円)	1,461,524	1,310,381	650,607	710,613	1,816,012
四半期(当期)純利益(千円)	790,314	644,688	353,731	377,082	981,542
純資産額(千円)	-	-	5,279,968	5,836,667	5,475,542
総資産額(千円)	-	-	12,734,963	12,899,261	12,635,921
1株当たり純資産額(円)	-	-	1,017.94	562.65	1,055.66
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	152.37	62.15	68.20	36.35	189.23
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	-	-	41.5	45.2	43.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	517,043	207,126	-	-	1,562,861
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	361,312	578,891	-	-	509,244
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	130,646	112,237	-	-	674,174
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	-	1,604,464	1,474,820	1,958,822
従業員数(人)	-	-	769	814	758

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
 おりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載して
 いません。

4. 平成22年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	814 (550)
---------	-----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成22年12月31日現在

従業員数(人)	5 (-)
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
ケイシイシイ(千円)	1,842,830	-
寿製菓(千円)	1,623,450	-
九十九島グループ(千円)	819,733	-
但馬寿(千円)	245,642	-
つきじちとせ(千円)	150,067	-
合計(千円)	4,681,722	-

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループは、受注から販売までの期間は概ね1ヶ月以内であり、また、月末における受注残高が少ないため受注状況の開示を前連結会計年度末より省略しております。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)	前年同四半期比(%)
ケイシイシイ(千円)	1,803,072	-
寿製菓(千円)	1,796,056	-
販売子会社(11社)(千円)	1,077,318	-
九十九島グループ(千円)	852,207	-
但馬寿(千円)	269,045	-
つきじちとせ(千円)	151,152	-
報告セグメント計(千円)	5,948,850	-
その他(千円)	702	-
(セグメント間の内部売上高又は振替高)	(949,289)	-
合計(千円)	5,000,263	-

(注) 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

2【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間における経営環境は、個人消費は持ち直しの動きがあるものの、依然として厳しい雇用情勢、個人所得の低迷による生活防衛意識を背景に、厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、地域性と専門店性を追求し、「ものづくり力」と「営業力」のレベルアップに努めることで他社との差別化を図り、期初に掲げた以下の重点施策をテーマにグループ各社は事業施策を遂行いたしております。

- ・「熱狂的ファンづくり」の徹底実践

- ・地域限定有店舗の通信販売の強化
- ・高付加価値製品の創出とお客様への伝え方の進化
- ・コンプライアンス強化と全員参画型経営の推進

その結果、売上面では、秋の行楽シーズン、クリスマス・年末商戦に向け積極的な販促活動を展開したことなどにより売上高は5,000百万円（前年同期比2.1%増）となり、前年同期を上回りました。

利益面につきましても、売上総利益率は概ね前年同期水準で推移し、また、販売費及び一般管理費についても効率的な使用に努め、売上高に対する販売管理費比率は、前年同期に比べ0.3ポイント低下した結果、営業利益は674百万円（前年同期比5.6%増）、経常利益は710百万円（前年同期比9.2%増）、四半期純利益377百万円（前年同期比6.6%増）となり、ともに前年同期を上回りました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

（注）第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び同適用指針（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用し、セグメントの業績を記載いたしております。これにともない、各セグメントの前年同期比較に関する情報は、記載いたしておりません。

ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、百貨店催事が低迷したものの、大丸札幌店のリニューアル効果、新商品「ヴェネチア・ランデヴー」の好調、また、通販クリスマス企画の充実に努めたことにより概ね前年同期水準で推移いたしました。その結果、売上高は1,803百万円となり、営業利益は309百万円となりました。

寿製菓

寿製菓は、山陰地区において「ゲゲゲの女房」効果により観光客が増加した利点を活かし、「白ウサギフィナンシェ」のモンドセレクション2年連続金賞受賞キャンペーン、「因幡の白うさぎ」リニューアルキャンペーンなどの販促展開が奏功し、堅調に推移いたしました。その結果、売上高は1,796百万円となり、営業利益は187百万円となりました。

販売子会社（11社）

販売子会社（11社）は、交通機関を中心に、専用什器を投入したコーナー展開を推進し、主力商品及び新製品の拡販に努めました。地域では、「コンディトライ神戸」ブランドを擁する関西地区が、新商品「神戸バニラフロマージュ」の販売強化、主力商品「神戸クリームチーズケーキ」モンドセレクション金賞受賞PR展開などにより堅調に推移いたしました。その結果、売上高は1,077百万円となり、営業利益は52百万円となりました。

九十九島グループ

九十九島グループは、ハウステンボス地区が回復基調となり、また、主力製品「九十九島せんべい」生誕60周年記念キャンペーンなど積極的なPR展開により主力商品が堅調に推移しました。その結果、売上高は852百万円となり、営業利益は93百万円となりました。

但馬寿

但馬寿は、遊月亭の黒豆茶が、テレビで紹介されたことなどにより認知度が高まり、通信販売が好調に推移いたしました。その結果、売上高は269百万円となり、営業利益は27百万円となりました。

つきじちとせ

つきじちとせは、交通機関を中心に主力商品の販売強化、10月にオープンした羽田新国際ターミナルへの拡販に努めました。その結果、売上高は151百万円となり、営業損失は11百万円となりました。

その他

その他におきましては、損害保険代理業が含まれております。売上高は0百万円となり、営業損失は0百万円となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ263百万円増加し12,899百万円となりました。流動資産は5,469百万円となり、75百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少(493百万円)があった一方、季節変動要因による受取手形及び売掛金の増加(382百万円)、商品及び製品の増加(156百万円)によるものです。固定資産は、7,429百万円となり、187百万円増加いたしました。主な要因は、有形固定資産において、減価償却費の計上による減少(357百万円)があった一方、店舗用地取得などの設備投資(542百万円)を実施したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ97百万円減少し7,062百万円となりました。流動負債は4,980百万円となり57百万円減少いたしました。主な要因は、短期借入金の増加(350百万円)、支払手形及び買掛金の増加(159百万円)による増加要因と未払法人税等の減少(308百万円)、賞与引当金の減少(136百万円)などの減少要因によるものです。固定負債は2,081百万円となり40百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金の減少(57百万円)です。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ361百万円増加し5,836百万円となりました。主な要因は、四半期純利益(644百万円)の計上による増加、配当金の支払い(259百万円)による減少などです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.9ポイント増加し45.2%となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、第2四半期連結会計期間末に比べ15百万円減少し1,474百万円(前年同期比8.1%減)となりました。

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、68百万円(前年同期比63.3%減)となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益710百万円、減価償却費138百万円の計上があった一方、売上債権の増加294百万円、法人税等の支払403百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、123百万円(前年同期比41.4%減)となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出88百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、39百万円(前年同期比42.3%減)となりました。

主な要因は、短期借入金の純増額150百万円と、長期借入金の返済による支出105百万円によるものであります。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間における研究開発費の総額は、6,413千円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方 法	着手及び完了予定年月		完成後 の増加 能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
(株)ケイシイシイ小樽洋菓子舗ルタオ	北海道 小樽市	ケイシイ シイ	新店舗建設	300,000	-	自己資金 及び借入 金	平成23年1 月	平成23年4 月	(注) 3

(注) 1. 金額には消費税を含めておりません。

2. 重要な設備の除却の計画はありません。

3. 当該計画は新店舗のため、生産能力の大幅な増加はありません。なお、計画概要は次のとおりであります。
 「ルタオ」の新店舗として、当社が小樽市に所有する店舗用不動産を改修、改築するものであり、店舗面積1,518㎡の改修、改築及び造作工事などにより総額300百万円を予定（平成23年4月完成予定）いたしております。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成22年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成23年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成22年10月1日～ 平成22年12月31日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

(6)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等はなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりませ
 ぬ。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成22年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成22年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,373,100	103,731	-
単元未満株式	普通株式 540	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,731	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成22年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成22年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	935	935	909	888	825	839	822	790	839
最低(円)	850	800	824	810	801	810	738	711	770

(注) 最高・最低株価は、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所JASDAQにおけるものであります。

3【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の様動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,015,520	2,508,922
受取手形及び売掛金	2,254,375 ²	1,872,175
商品及び製品	508,731	351,996
仕掛品	34,614	28,116
原材料及び貯蔵品	339,793	310,990
その他	337,391	328,410
貸倒引当金	20,692	6,255
流動資産合計	5,469,732	5,394,354
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,015,795	3,084,294
機械装置及び運搬具(純額)	428,878	397,233
工具、器具及び備品(純額)	191,505	191,578
土地	2,571,639	2,344,340
リース資産(純額)	72,594	69,256
建設仮勘定	25,156	27,292
有形固定資産合計	6,305,567 ¹	6,113,993 ¹
無形固定資産	112,072	82,527
投資その他の資産		
その他	1,064,461	1,098,180
貸倒引当金	52,571	53,133
投資その他の資産合計	1,011,890	1,045,047
固定資産合計	7,429,529	7,241,567
資産合計	12,899,261	12,635,921
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	839,749	680,268
短期借入金	2,350,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	739,908	862,312
未払法人税等	185,846	494,265
賞与引当金	171,010	307,676
その他	694,276	693,583
流動負債合計	4,980,789	5,038,104
固定負債		
長期借入金	1,015,212	1,072,629
退職給付引当金	704,458	685,302
役員退職慰労引当金	118,471	111,971
その他	243,664	252,373
固定負債合計	2,081,805	2,122,275
負債合計	7,062,594	7,160,379

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,307,795	2,922,448
自己株式	219	187
株主資本合計	5,848,537	5,463,222
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,870	12,320
評価・換算差額等合計	11,870	12,320
純資産合計	5,836,667	5,475,542
負債純資産合計	12,899,261	12,635,921

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	14,111,589	14,169,948
売上原価	7,153,303	7,221,874
売上総利益	6,958,286	6,948,074
販売費及び一般管理費	5,526,027	5,699,423
営業利益	1,432,259	1,248,651
営業外収益		
受取利息	1,468	637
受取配当金	2,472	2,745
受取地代家賃	59,836	54,870
違約金収入	-	25,000
その他	17,085	20,860
営業外収益合計	80,861	104,112
営業外費用		
支払利息	48,047	39,876
その他	3,549	2,506
営業外費用合計	51,596	42,382
経常利益	1,461,524	1,310,381
特別損失		
固定資産売却損	476	36
固定資産除却損	8,180	4,601
役員退職慰労金	20,450	-
減損損失	18,669	-
ゴルフ会員権評価損	900	-
貸倒引当金繰入額	7,550	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	49,357
特別損失合計	56,225	53,994
税金等調整前四半期純利益	1,405,299	1,256,387
法人税等	614,985	611,699
少数株主損益調整前四半期純利益	-	644,688
四半期純利益	790,314	644,688

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
売上高	4,896,079	5,000,263
売上原価	2,434,604	2,480,077
売上総利益	2,461,475	2,520,186
販売費及び一般管理費	1,822,394	1,845,475
営業利益	639,081	674,711
営業外収益		
受取利息	412	146
受取配当金	1,057	1,059
受取地代家賃	19,943	14,961
違約金収入	-	25,000
その他	6,518	8,730
営業外収益合計	27,930	49,896
営業外費用		
支払利息	15,249	13,104
その他	1,155	890
営業外費用合計	16,404	13,994
経常利益	650,607	710,613
特別利益		
貸倒引当金戻入額	92	-
特別利益合計	92	-
特別損失		
固定資産除却損	5,067	312
ゴルフ会員権評価損	900	-
貸倒引当金繰入額	7,550	-
特別損失合計	13,517	312
税金等調整前四半期純利益	637,182	710,301
法人税等	283,451	333,219
少数株主損益調整前四半期純利益	-	377,082
四半期純利益	353,731	377,082

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,405,299	1,256,387
減価償却費	385,063	394,256
減損損失	18,669	-
ゴルフ会員権評価損	900	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	49,357
貸倒引当金の増減額(は減少)	961	13,875
賞与引当金の増減額(は減少)	95,326	136,666
退職給付引当金の増減額(は減少)	21,052	19,156
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	171,863	6,500
受取利息及び受取配当金	3,940	3,382
支払利息	48,047	39,876
固定資産売却損益(は益)	476	36
固定資産除却損	7,395	4,601
違約金収入	-	25,000
売上債権の増減額(は増加)	314,425	382,200
たな卸資産の増減額(は増加)	168,461	192,036
仕入債務の増減額(は減少)	57,174	159,481
その他	44,115	65,259
小計	1,233,214	1,138,982
利息及び配当金の受取額	2,721	2,977
利息の支払額	46,331	39,148
法人税等の支払額	672,561	895,685
営業活動によるキャッシュ・フロー	517,043	207,126
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	6,350	2,000
定期預金の払戻による収入	11,200	11,400
投資有価証券の取得による支出	5,906	905
有形固定資産の取得による支出	346,084	525,235
有形固定資産の売却による収入	518	141
無形固定資産の取得による支出	16,851	43,100
貸付けによる支出	150	2,200
貸付金の回収による収入	330	1,300
その他	1,981	18,292
投資活動によるキャッシュ・フロー	361,312	578,891
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	430,000	350,000
長期借入れによる収入	250,000	600,000
長期借入金の返済による支出	584,861	779,821
建設協力金の返済による支出	7,500	7,500
ファイナンス・リース債務の返済による支出	10,808	15,543
自己株式の取得による支出	-	32
配当金の支払額	207,477	259,341
財務活動によるキャッシュ・フロー	130,646	112,237
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	25,085	484,002
現金及び現金同等物の期首残高	1,579,379	1,958,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,604,464	1,474,820

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>資産除去債務に関する会計基準の適用</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益がそれぞれ2,337千円減少し、税金等調整前四半期純利益が51,693千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書)	<p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p>

	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
(四半期連結損益計算書)	<p>「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結会計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。</p>

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)
 該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
税金費用の計算	<p>税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1.有形固定資産の減価償却累計額 6,981,481千円	1.有形固定資産の減価償却累計額 6,607,178千円
2.四半期期末日満期手形 四半期連結会計期間末満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間末の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。 受取手形 9,918千円	2.

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 従業員給料・賞与 1,557,125千円 販売促進費 1,278,761 貸倒引当金繰入額 1,565 賞与引当金繰入額 81,683 退職給付引当金繰入額 24,852 役員退職慰労引当金繰入額 7,686	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 従業員給料・賞与 1,688,680千円 販売促進費 1,172,951 貸倒引当金繰入額 17,530 賞与引当金繰入額 38,845 退職給付引当金繰入額 23,501 役員退職慰労引当金繰入額 6,500

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 従業員給料・賞与 470,604千円 販売促進費 425,116 賞与引当金繰入額 81,683 退職給付引当金繰入額 1,198 役員退職慰労引当金繰入額 3,834	販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 従業員給料・賞与 537,434千円 販売促進費 427,860 貸倒引当金繰入額 8,044 賞与引当金繰入額 38,845 退職給付引当金繰入額 5,440 役員退職慰労引当金繰入額 2,167

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)
現金及び預金勘定 2,153,114千円 預入期間が3ヶ月を超える定期預金等 548,650	現金及び預金勘定 2,015,520千円 預入期間が3ヶ月を超える定期預金等 540,700
現金及び現金同等物 1,604,464	現金及び現金同等物 1,474,820

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成22年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
 普通株式 10,373,840株
2. 自己株式の種類及び株式数
 普通株式 229株
3. 新株予約権等に関する事項
 該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	259,341	50.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
 当社の企業集団は、菓子製品の製造及び販売を主な事業としており、1セグメントの売上高及び営業利益の金額がいずれも合計の90%超となっております。
 また、当該セグメント以外に開示基準に該当するセグメントがありません。このため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
 本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がありませんので、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)及び前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
 海外売上高がないため、該当事項はありません。

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）及び当第3四半期連結会計期間（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、菓子製品の製造及び販売を主な事業としており、純粋持株会社である当社は、グループ全体の経営方針、中期的な経営計画の策定等、意思決定の機能を有し、各子会社はその基本的方針に基づいて各々独立した経営単位として、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは報告セグメントを各子会社ごとに分類しております。

なお、子会社の内、販売子会社11社をマネジメントアプローチの集約基準に基づき、1つの報告セグメントとして集約しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年12月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会 社(11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじち とせ	計				
売上高											
外部顧客への 売上高	4,578,196	3,687,223	3,087,881	2,085,527	265,593	461,985	14,166,405	3,543	14,169,948	-	14,169,948
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	417,305	1,448,565	469	203,132	551,699	18,339	2,639,509	-	2,639,509	2,639,509	-
計	4,995,501	5,135,788	3,088,350	2,288,659	817,292	480,324	16,805,914	3,543	16,809,457	2,639,509	14,169,948
セグメント利益 (は損失)	549,202	386,824	116,119	136,688	74,066	37,524	1,225,375	377	1,225,752	22,899	1,248,651

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益（は損失）の調整額22,899千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額315,613千円、セグメント間取引消去額9,686千円、たな卸資産の調整額 23,258千円、各報告セグメントに配分していない
 全社費用 279,142千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結会計期間(自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会 社(11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじち とせ	計				
売上高 外部顧客への 売上高	1,612,836	1,292,387	1,077,158	777,358	88,670	151,152	4,999,561	702	5,000,263	-	5,000,263
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	190,236	503,669	160	74,849	180,375	-	949,289	-	949,289	949,289	-
計	1,803,072	1,796,056	1,077,318	852,207	269,045	151,152	5,948,850	702	5,949,552	949,289	5,000,263
セグメント利益 (は損失)	309,743	187,215	52,580	93,242	27,839	11,267	659,352	331	659,021	15,690	674,711

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額15,690千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額111,871千円、セグメント間取引消去額3,945千円、たな卸資産の調整額 16,673千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 83,453千円であります。全社費用は主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(賃貸等不動産関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 562.65円	1株当たり純資産額 1,055.66円

(注) 当社は、平成22年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式分割が前連結会計年度の開始の日に行われたと仮定した場合における前連結会計年度末の1株当たり純資産額は527円83銭であります。

2. 1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 152.37円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在様式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 62.15円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在様式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(千円)	790,314	644,688
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	790,314	644,688
期中平均株式数(株)	5,186,920	10,373,631

2. 当社は平成22年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式分割が前連結会計年度の開始の日に行われたと仮定した場合における前第3四半期連結累計期間に係る1株当たり四半期純利益金額は76円18銭であります。

なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 68.20円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在様式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 36.35円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在様式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1. 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成22年10月1日 至平成22年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益(千円)	353,731	377,082
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	353,731	377,082
期中平均株式数(株)	5,186,920	10,373,611

2. 当社は平成22年4月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っております。当該株式分割が前連結会計年度の開始の日に行われたと仮定した場合における前第3四半期連結会計期間に係る1株当たり四半期純利益金額は34円10銭であります。

なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取

引に係る方法に準じて会計処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月5日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松本 保範 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年2月7日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成22年10月1日から平成22年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成22年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。